

参考資料 5

平成18年1月13日

平成18年度における食品健康影響評価技術研究の研究領域について

平成18年1月12日に開催された食品安全委員会第126回会合において、以下の5研究領域が決定されましたのでお知らせします。

I 化学物質系研究領域

○ 化学物質の定量的毒性評価法に関する研究領域

食品中の単独あるいは同時に複数の化学物質による暴露に対する定量的な健康影響評価に資する研究を募集する。

(留意事項) MOE (Margin of Exposure)等の新たな指標も含め精密な暴露評価手法等の開発に資するものであること。または、乳幼児及び高齢者等のリスク高感受性グループへの健康影響の評価手法等の開発に資するものであること。

II 生物系研究領域

○ 食品に起因するv C J Dのリスク評価のための効果的B S Eサーベイランス手法の開発に関する研究領域

食品に起因するv C J Dのリスク評価に資する効果的なB S Eサーベイランス手法の開発に資する研究を募集する。

(留意事項) 疫学的・統計学的に、B S Eを最も効率よく摘発するサーベイランス手法やB S Eの感染数からv C J Dの発生数を予測する手法等の開発に資するものであること。

○ 食品に起因する病原微生物のリスク評価法に関する研究領域

食品に起因する病原微生物の効率的・効果的な健康影響評価に資する研究を募集する。

(留意事項) ノロウイルス、肝炎ウイルス、カンピロバクター、リステリア菌等、食品に起因する病原微生物による健康影響を効率的・効果的に評価する手法の開発に資するものであること。

III 新食品等研究領域

○ 健康食品等の安全性評価法に関する研究領域

健康食品等の健康影響評価に資する研究を募集する。

（留意事項）新たに開発された食品素材及び従来の食品成分を濃縮する等により開発された食品素材の過剰摂取、長期摂取等による健康影響評価（乳幼児及び高齢者等のリスク高感受性グループの健康影響評価を含む）の評価指標の設定あるいは安全性評価法の開発に資する研究であること。

IV リスクコミュニケーション研究領域

○ リスクコミュニケーションの情報提示方法、言語表現等に関する研究領域

効率的かつ効果的なリスクコミュニケーションのための情報提示方法、言語表現等に資する研究を募集する。

（留意事項）リスクコミュニケーションを進める上で、使われる情報伝達メディアや表現方法によって、どのような意識変化及び行動変容が生じるか、また、関係者間において日本語等の表現がどのように認知されるか、等を明確にし、意見交換の実効性の観点から効果的かつ効率的なリスクコミュニケーションの実施に資するものであること。